

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 4月 10日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|-------------------------------------|--|--|
| 事業所番号 | 1070500663 | | |
| 法人名 | 東洋マインド株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム 新井荘 | | |
| 所在地 (電話番号) | 群馬県太田市新井町285-4 (電話) 0276-48-0456 | | |
| 評価機関名 | サービス評価センター はあとらんど | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市大友町2-29-5 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年3月18日 | | |

【情報提供票より】(平成20年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|---------------------|-------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 8 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9人 |
| 職員数 | 7人 | 常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 | 4.75人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|-----------|
| 建物形態 | 併設/単独 | 新築/改築 |
| 建物構造 | 鉄筋 造り | |
| | 2階建ての | 1階 ~ 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 29,000 円 | その他の経費(月額) | 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 400 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり | 1100 円 | |

(4) 利用者の概要(3月7日現在)

| | | | | | |
|-------|------------|---------|----|------|----|
| 利用者人数 | 7名 | 男性 | 0名 | 女性 | 7名 |
| 要介護1 | 0名 | 要介護2 | 1名 | | |
| 要介護3 | 4名 | 要介護4 | 1名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | | | 1名 |
| 年齢 | 平均 81.71 歳 | 最低 66 歳 | 最高 | 91 歳 | |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|----------------------|
| 協力医療機関名 | 新田診療所 石堂歯科クリニック 堀江病院 |
|---------|----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭から家庭へ、みんな笑顔でやさしい家族」と理念を掲げ、和やかな家庭的雰囲気の中で一人ひとりが自由でのんびりとしたその人らしく生活が送れるように、管理者と職員は目配り、気配り、見守りを行い支援をしている。地域との交流では散歩時に挨拶を交わす、話をする、休憩をさせてくれる、野菜を頂く、災害時の協力体制、消火訓練、救急救命の講習等とともに行うなど地域との交流が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点①理念を見やすく②緊急時に職員が適切な対応が出来るよう③入浴の回数を増やす。改善点に対し職員より提案がなされている。①に対しては玄関に掲示されている。②に対しては救急講習に職員全員が参加している。また近所の人にも応援を依頼し訓練も参加してもらっている。③入浴は仲良し通しの入浴を試みたりして改善されている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的を理解し、今回の自己評価に管理者と職員全員で取り組んだ。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度開かれている。メンバーは民生委員、老人会、市職員、利用者家族、利用者、管理者、職員勤務者全員。会議はホームの食堂で開かれるので利用者も参加している。災害対策ではこの推進会議で地域に協力依頼が出来た。次回からは地域の人にも会議への参加を呼びかける予定。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が苦情を言いにくい事をホーム側は感じ取り、言いやすい雰囲気作りをする。ホーム側から会話の中に「要望などありませんか?」と積極的に話しかけて行くようにしている。面会の時など日常会話の中に家族の意見を察知し運営に反映させようと努力している。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。散歩の時なども地域に一体みする家などがあり、地域との関係が築かれている。回覧板なども利用者と一緒に届けに行き、なじみの関係を築く努力をしている。地域の人より野菜の差し入れや行事の誘いなど地域にある普通の暮らしが出来る支援がされている。</p> |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 管理者、職員で理念を話し合い「家庭から家庭へみんな笑顔でやさしい家族」と掲げ、ケア実践を行っている。地域密着型サービスとして理念の見直しはされていない。 | ○ | これまでの理念を見直し、地域の中でその人らしく生活することを支える地域密着型サービスの役割を職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作りあげて欲しい。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者と職員は、日々の日常会話で理念に触れ、理念の実現に向けて取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入している。地域の敬老会、小学校の運動会、お祭り、納涼祭等、利用者と職員は行事に積極的に参加している。また回覧板を届ける、野菜を頂く、散歩時に挨拶を交わす、休憩をさせてくれる家がある。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者と職員全員で自己評価を作成している。職員は評価の意義を理解し、サービス向上に向け改善の提案がされている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度開催されている。事業所から状況、行事、ボランティア等の報告を行っている。参加者から意見、要望などを伺っている。災害時の協力依頼をしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 外出の時に市の担当窓口に立ち寄り情報交換をしている。申請の代理や利用者の状況報告など市との連携を図っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会に見えた家族にはその時に暮らしぶりなどを報告している。管理者は毎月金銭の報告をお便りで知らせている、その時にも健康状態などを知らせている。職員の異動についても面会時やお便りで家族に知らせている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族との対話を大切にし、面会の時などには家族が苦情などを言いやすい雰囲気作りに留意している。苦情箱も設置しており、意見、苦情等は運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 管理者は、職員の異動は利用者には不安を与えるので出来るだけ影響が出ないよう最小限にしている。新しい職員は慣れるまで先輩職員と一緒にケアに当たっている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員はレベルアップ、苦情に関して、身体拘束の研修等を受講している。研修の報告を行い職員は共有している。資料は閲覧しいつでも見られるようにしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス連絡協議会に加入している。協議会との交流もあり、交換研修を実施し質の向上に励んでいる。ブロックの研修にも参加し交流している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 本人、家族に施設を見学してもらい、施設の雰囲気を知ってもらい、納得してから利用してもらうようしている。また、体験宿泊等も行っている。緊急利用の場合は、家族の協力を得ながら、環境になじめるように配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は人生の先輩であり先生であるという考えを共有して生活をしている。調理等を通して教えられる事がある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々のかかわりの中で、本人との会話等の中から思いや希望を汲み取るようにしており、家族からも意見等も聴くようにしている。また、表情等からも意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。月に1度モニタリングを行いケア会議で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員は担当制をとっており、状態や気づき等を職員間で話し合い、本人、家族に説明し確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者が行きたい所に出来るだけ行ける支援をしている。美容院、買物、お墓参り、葬儀の参列、病院の見舞いなど柔軟な対応がされている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。協力病院でも対応は家族の希望で出来る。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期における家族の意向を確認し、承諾書は随時頂くようにしている。家族、かかりつけ医、事業所等でその都度話し合い、家族の意向を確認し、全員で方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員は言葉掛けに一人ひとりの尊厳を傷つけないように注意しており、方言なども気をつけながら使っている。個人記録等の個人情報の取り扱いに関しても留意している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的には食事の時間は決められているが、一人ひとりの状態やその時の意向に沿えるように支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立や調理、野菜の皮むきなど利用者が参加している。配膳、テーブル拭き、お茶入れ、下膳、など手伝っている。職員は利用者と同じものを一緒に食べている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の希望やタイミングに合わせて、時間等も柔軟に対応し(時には夜勤帯で)入浴支援をしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの生活歴を活かした役割が用意されている。花の水やり、掃除、雑巾縫い、編み物、洗濯物たたみ、料理などの役割がある。またドライブ、お弁当持参で花見、外食、温泉旅行、飲み物(珈琲、紅茶、ジュース等)を選ぶ、好きな喫煙等で、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 近所に散歩したり、野菜を畑に取りに行ったり、ドライブに出かけたりしている。また弁当持ちで出かけている。職員との外出や花見、温泉旅行なども実践している。希望者はコンサートにも出かけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。管理者、職員は見守りを行い利用者の様子を察知して対応し安全面に配慮している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に2回災害訓練を行っている。地域の人々の協力体制を依頼しており、緊急連絡網が作成されている。職員と地域の人と一緒に救急救命の講習、消火訓練、避難場所の確認等もしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、栄養バランス、水分量等を記録し、職員は情報を共有している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間にはソファ、テーブル、椅子がある。玄関には花があり周りを和ませている。また利用者の写真や作品が飾られて居心地の良さを出している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自分の使い慣れたものが部屋の個性を醸し出している。寝具、テレビ、宗教に関するものなどが持ち込まれている。 | | |